

宇賀峡に野生するユリについて

石田 源次郎

昭和52年8月に日本シダの会が催した宇賀峡での観察・採集会に参加した際、広島市立祇園小学校教頭温田家弘氏から宇賀峡入口に見なれないユリが生育しているというのを聞き、現地付近の調査を行った。その結果、当該のユリは、宇賀峡付近の2～3ヶ所で生育が確認できた。(下図)

宇賀峡の場合、宇賀ダム西側の道路に面した崖部分に生育し、昭和52年、53年の開花期には、約20～30個体の開花が見られ、秋には結実も確認できた。生育場所の崖には、小さな実生も多く存在していた。

小河内駅構内には、多数生育していたが、これは、駅員により種子が播かれ増やされてきたものであろう。

小河内駅と布駅間のトンネル下り出口付近の線路わきの崖にも生育しているが、ここは岩が露出し、人が登れない程の急な斜面である。ここにも数十株の生育が見られた。

広島県内に自生するユリは、ササユリ、ヒメユリ、オニユリ、コオニユリの5種で、宇賀峡に野生するユリは、このいずれにも属さないも



宇賀峡に野生するユリ

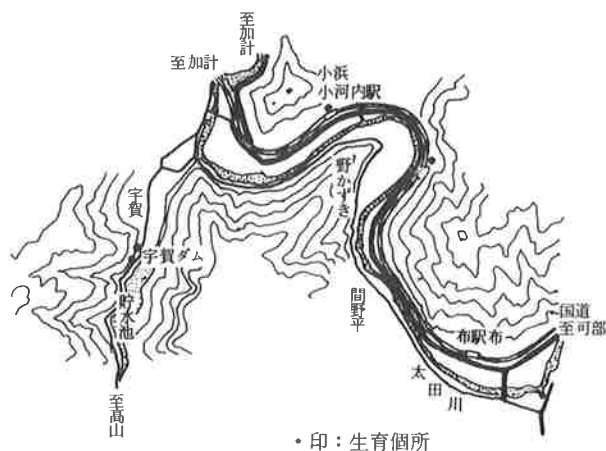
のである。

宇賀峡のユリを栽培し、観察すると、葉は細く線形、花弁は白色、外側に赤紫色を帯び、花粉は橙黄色、無香もしくは微香であった。

形態的には、台湾に産するタカサゴユリに類似している点が多い。

同様なユリの野生化は、高知県や長崎県でも報告があり、いずれの場合もタカサゴユリであるとしている。

宇賀峡に野生するユリについても前述のように多くの点で、タカサゴユリに類似しているが、タカサゴユリかどうかの決定は、今後このユリの侵入経路の調査や細胞学的観察を行ったのちにしたい。



宇賀峡付近のユリの分布